

ひょうごの 遺跡

109号

(公財)兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1 兵庫県立考古博物館内 TEL.079-437-5561 FAX.079-437-5591 URL:https://www.hyogo-ctc.or.jp/

令和4・5年度 発掘調査速報

低地に暮らした縄文時代のひとびと
焼失住居に残された二つ掛けカマドを発見

—沖代遺跡(揖保郡太子町沖代)

三原平野東部の弥生集落

—荒目遺跡(南あわじ市八木養宜中)

夢前川下流域の中心的集落

—才村遺跡・郷着遺跡(姫路市広畑区才)

公開活用の現場から

3Dデータの活用方法

—三月野3号墳(養父市大塚)の事例から—

ひょうごの掘り出しもの

～第7回～ 出土した唐三彩

低地に暮らした縄文時代のひとびと

おきだい
沖代遺跡（揖保郡太子町沖代）



動画はこちら

沖代遺跡は揖保川と大津茂川に挟まれた平野にあり、現在は河川が運んだ土砂の堆積した微高地となっています。今回、網干停車場新舞子線の建設に伴い発掘調査を行いました。

令和4年度に1・2区、5年度に3～5区を調査しました。1・2区では、古墳時代中期～後期の^{たてあなたでもの}竪穴建物や柱を建てた穴（柱穴）等（4ページで詳細を解説しています）、3区では弥生時代前期の柱穴や溝等が見つかりました。4区には幅の広い流路があり、その中からたくさんの縄文土器のほか土偶の破片が出土しました。さらに、この流路より古い時期には低地が広がっており、5区ではその低地に繰り返し縄文時代後期の建物が建てられていたことがわかりました。

今回は、この4・5区における縄文時代後期の集落跡の調査成果をご紹介します。

縄文時代後期の竪穴建物と平地建物

5区で見つかった建物は2種類あります。一つは、地面を円形や方形に掘りくぼめて作った床面に柱を建て、屋根をふく「竪穴建物」、もう一つは地面を掘らずにそのまま柱を建て、柱で囲われた部分を屋根で覆う「平地建物」です。竪穴建物は5棟を確認しました。床面には、柱穴や炉跡と思われる土坑があり、当時の住居と考えられます。平地建物は少なくとも8棟を確認しており、なかには竪穴建物と同じく土坑を伴うものもあります。

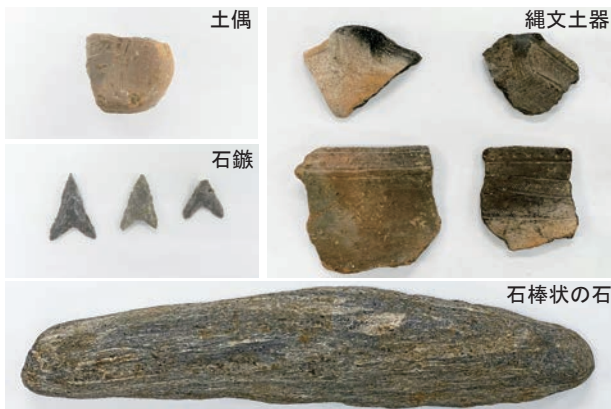
出土した土器から、建てられた時期は平地建物の多くが縄文時代後期（約4,000～3,000年前）の前葉、一部の平地建物と竪穴建物がその中葉と、大きく2時期に分かれます。後期中葉以降の縄文時代の建物は確認されていません。



調査地とその周辺（南から）



4区西側の谷状地形



主な出土品



平地建物を構成する柱穴群

たくさんの縄文土器と石器

4区や5区からの出土品の大部分を占めるのは縄文土器です。多くは縄文時代後期前葉と中葉に近畿地方でみられるタイプきたしらかわじょうそう（北白川上層式1期、もとすみよしやま元住吉山I式）ですが、中国地方の土器の特徴をもつものや、九州地方で出土するタイプの土器もあります。

また、石鏃せきぞく、石錐せきすい（布等に穴をあけるためのドリル）、スクレイパー（携帯用のナイフ）、すり石（木の実等をすりつぶす道具）、砥石等といしの石器も多く出土しました。石鏃や石錐、スクレイパーは香川県で産出する「サヌカイト」でできており、石核せきかくも出土したことから、この場所で石器づくりも行われていたと考えられます。

まつりの道具

土器や石器という日常生活の道具だけでなく、「まつり」のための道具と考えられる出土品もあります。一つは土偶の破片（お尻の部分）です。愛知県を中心に出土する「今朝平タイプ」けさだいらの土偶で、県内の出土は3例目となります。もう一つは石棒状

の石です。石棒とは男性のシンボルかたどを象ったものです。出土品は徳島県で産出する結晶片岩けっしょうへんがんを使い、完全な石棒の形ではないものの、端部が丸く加工されていました。

縄文時代後期の沖代遺跡

このように、沖代遺跡には縄文時代後期前葉と中葉という限られた2つの時期に、いくつかの建物を建て、石器づくりや土偶等を使ったまつりを行う集落があり、東海地方や九州・四国地方といった遠く離れた地域とも交流があったと考えられます。

縄文時代後期には、それまで山や丘等の高いところにあった集落が平野、低地を点々とするようになります。今回の成果もそのように移り住む様子を示しています。

この時期の遺跡で、柱穴や炉跡のある建物がまとまって確認できる事例は県内で初めてで、近畿地方でも有数の規模の集落遺跡となります。今後、出土品の分析や周辺遺跡との比較等から、人々の低地での暮らしの様子が復元されるかもしれません。

（調査第1課 岡田大雄）



5区竪穴建物の分布状況（上空からの俯瞰写真）

焼失住居に残された二つ掛けカマドを発見 沖代遺跡（揖保郡太子町沖代）



カマドの動画はこちら

昨年度発掘調査を行った1区と2区では、弥生時代から中世に及ぶ集落が確認され、古墳時代中期から後期の集落は竪穴建物9棟と溝3条で構成されていました。

なかでも古墳時代中期の竪穴建物や溝からは、初期須恵器や土師器をはじめ、朝鮮半島南部で焼かれた土器（陶質土器）や朝鮮半島の作り方により日本で作られた土器（韓式系土器）、製塩土器、鞆の羽口、滑石製玉類などが出土しました。

最初に建てられた竪穴建物では、壁沿いに造りつけられたカマドが良好な残存状況で見つかりました。古墳時代のカマドは役割を終えると壊されてしまうことが多く、なかなかはっきりとした姿がわからないのですが、この竪穴建物は火事に遭って屋根材が床面に焼け落ちていたことから、カマドがほぼ完全な状態で残っていました。

カマドには2つの鍋が横並びにかけられ、鍋の底部を支える長細い石（支脚）が立てられていました。カマドの袖は黄色い粘土を使って築かれ、袖の骨組みに杭を何本も打設していたことも解明されました。



コンパス文の描かれた初期須恵器の器台の破片

お米を蒸すためのカマドは朝鮮半島から伝わり、なかでも二つ掛けカマドは朝鮮半島南西部（栄山江流域）に集中して分布することが知られています。

一方、初期須恵器の器台の外面上には、コンパスで二重の半円を上下に反転させながら連続させる文様（コンパス文）が描かれており、朝鮮半島南東部（洛東江流域）に文様のルーツがあると考えられています。

穴窯で焼き物を焼成したり、お米をカマドで蒸したり、製鉄や馬の飼育の技術が朝鮮半島南部から伝わる、5世紀の“韓流ブーム”が巻き起こった様子が西播磨地域の揖保川下流域でも見てとれ、その故地は朝鮮半島の複数の地域に求められるのです。

（調査第1課 上田健太郎）



焼失住居の埋土上面と床面の検出状況



石製支脚と鍋の残された二つ掛けカマド

三原平野東部の弥生集落

あらめ
荒目遺跡 (南あわじ市八木養宜中)

動画はこちら

荒目遺跡は淡路島南部の三原平野東部に位置します。三原平野東部は、古代には淡路国分寺・国分尼寺が、中世には淡路安国寺や淡路国守護の細川氏の居館である養宜館^{やぎやかた}が建てられるなど、古代以降は淡路島の中心となる地域です。

令和4年度に、養宜川^{ようぎ}の河川改良工事に先立ち発掘調査を行いました。調査では掘立柱^{ほったてばしら}建物が6棟確認されました。出土遺物が少なく、時期の特定が難しいものが多いですが、古代のものが中心と考えられます。

また、弥生時代後期を中心とする集落跡も発見されました。比較的標高が高い範囲で、円形の竪穴建^{しゅうけつ}物4棟と多くの土坑が見つかりました。竪穴建物は、中央に炉跡があり、壁際に排水のための周壁溝^{しゅうへきこう}をもつものです。入口と考えられる張り出しをもつものや、周囲にベッド状の高床部をもつもの、建て替えによると考えられる周壁溝の

掘り直しがあるものが見つかりました。

土坑の1つでは、ほぼ完形の弥生土器の壺が横倒しになっていました。特定はできませんが、子どものお墓かもしれません。

出土した弥生土器のなかには、大阪府の生駒山地^{いこまさんちせいろく}西麓で作られたと考えられる、褐色で角閃石を多く含むものがありました。また、石器においても香川県と徳島県で産出する石材が使われているものがあつたことから、弥生時代の人々の暮らしが淡路島を超えた物流によって成り立っていたことがわかります。

荒目遺跡がある三原平野東部は弥生時代中期後葉以降に遺跡が急増します。弥生時代のはじめには、標高が低い三原平野西部を中心に暮らしていた人々が、標高が高い三原平野東部を開発していった一端を荒目遺跡からうかがうことができます。

(調査第2課 三好元樹)



荒目遺跡遠景 (東から)



古代の掘立柱建物 (西から)



入口の張り出しをもつ竪穴建物 (西から)



土坑から出土したほぼ完形の弥生土器 (北から)

夢前川下流域の中心的集落

才村遺跡・郷着遺跡 (姫路市広畑区才)

才村遺跡・郷着遺跡は夢前川右岸の沖積地に位置する集落遺跡です。

広畑青山線の建設に先立ち、発掘調査を平成30年度から実施しています。今回は令和4年度に実施した才村遺跡の発掘調査成果を中心に説明します。

1区では竪穴建物2棟を検出しました。そのうち1棟ではカマドが残っていたほか、メノウ製の勾玉が見つかりました。

2区では自然流路から弥生時代後期～古墳時代初頭の土器が多量に見つかりました。出土状況から、流路の南側に想定される居住域から廃棄されたものと考えられます。

3区では竪穴建物21棟や掘立柱建物10棟、井戸1基などを検出しました。竪穴建物は古墳時代中期～後期のもので、溝群に沿うように建てられていたことがわかりま

した。掘立柱建物は奈良時代～平安時代の1棟が柱穴の大きさなどから規模の大きなものになることがわかりました。井戸は木製の井戸枠が一部残存して見つかりました。井戸の底からはほぼ完形の墨書土器と曲物の蓋などが出土しました。井戸を覆うように掘立柱建物がありますので、井戸に覆屋があった可能性が考えられます。

才村遺跡では古墳時代中期～後期の竪穴建物が計66棟見つかりました。古代では大規模な掘立柱建物や覆屋をもつ可能性のある井戸など公的施設と考えられる遺構が見つかりました。才村遺跡の南側にある郷着遺跡でも集落が見つかり、これらの遺跡が夢前川下流域の中心的な集落であったことがうかがえます。

(調査第1課 鈴木郁哉)



才村遺跡遠景



3区中央部遺構全景



1区 カマドをもつ竪穴建物と勾玉



3区 井戸枠内遺物出土状況と墨書土器

3D データの活用方法

みつきの
-三月野3号墳（養父市大塚）の事例から-



動画はこちら

発掘調査では、遺跡の情報を様々な手法で記録します。その中で、近年特に注目されているのが3Dデータです。立体的かつ情報量の多い記録をすぐに作成できるだけでなく、遺跡の様子を分かりやすく伝えられるとあって、調査成果の公開においても活用が進んでいます。

今回は、第108号で調査報告を行った三月野3号墳での活用方法を紹介します。

①動画での活用

右上の二次元コードから、調査成果の動画をご覧ください。この動画は、3Dデータを元に作成したCG動画です。CG動画では、古墳の外から石室の中へとカメラが移動し、石室の中に入っていき感覚が味わえます。現地でなくとも、古墳の雰囲気を感じられるよう工夫しました。

②ミニチュア模型の作成

兵庫県立考古博物館の協力のもと、3Dプリンターでミニチュア模型を作成しまし

た。実際の古墳の約50分の1の大きさのもので、色も再現されているため、石室の石材や墳丘の様子がよく分かります。

発掘調査速報会（2023年7月）の会場に展示したところ、古墳の形や様子がよく分かると来場者の方々に好評でした。

当センターでは、3Dデータを活用し、遺跡の内容を分かりやすく伝える方法を引き続き検討していきます。今後ご期待ください。（整理保存課 稲本悠一）



作成したミニチュア模型と速報会での様子



古墳のCG動画（この後カメラは石室の内部へと移動）

ひょうごの 掘り出しもの

～第7回～

とうさんさい 出土した唐三彩

(姫路市 池ノ下遺跡)

池ノ下遺跡は JR 英賀保駅の北東一帯に広がる遺跡で、弥生時代から中世にかけての集落跡が見つかっています。そして、なかでも古代の出土遺物は興味深いものです。

遺物には石帯、円面硯、瓦等が含まれ、特筆すべきものとして唐三彩の弁口瓶があります。

唐三彩はその名のとおり、唐の時代の中国で作られた施釉陶器で、白色・褐色・緑色などの複数の色の釉薬がかけられています。当時の都や寺跡などから、おもに陶枕・壺などが出土しています。

弁口瓶は金属製水差しが起源で、高台が付いた球形あるいは涙滴形の胴部に細長い頸部をもち、頸部上端から胴部にかけて把手が付き、口縁部を両側からすばませ、くちばし状の注ぎ口をもちます。仏具の可能性がります。

出土した弁口瓶は残存状況が良くないのですが、特徴的な口縁部と頸部が残っています。全面に施釉されていたと考えられますが、ほとんどが剥落し、白色・褐色・緑色の釉がごく一部に残さ


れています。なお、現在のところ、国内でも弁口瓶の出土例はこれ以外にほとんどないのではないかと思います。

池ノ下遺跡の丘陵を挟んだ西側には、実態はよくわからないものの蓮華文埴が出土した山所廃寺があり、池ノ下遺跡と併せて規模の大きな古代寺院が営まれていた可能性があります。

(調査第1課 鐵 英記)



出土した弁口瓶



本誌に掲載の遺跡

- ① 沖代遺跡
揖保郡太子町沖代
- ② 荒目遺跡
南あわじ市八木養宜中
- ③ 才村遺跡・郷着遺跡
姫路市広畑区才

令和5年度 兵庫県立考古博物館 公開企画展
福田片岡遺跡
 中世の道と物流—
 令和6年
 1/13(土) — 3/10(土)
 つなぐ場所
 Hyogo Prefectural Museum of Archaeology
 兵庫県立考古博物館

編集後記

本号では、令和4・5年度に行った調査や3Dデータの活用についてお伝えしました。3次元計測等、調査技術も進展する近年、調査員も様々なことを勉強なくてはと感じます。次号でも新たな成果にご期待ください。(調査第1課 岡田大雄)

『ひょうごの遺跡』バックナンバーはこちら！

https://www.hyogo-koukohaku.jp/modules/book/index.php?action=PageList&category_id=3

<https://www.hyogo-ctc.or.jp/iseki/>

1～82号



考古博物館HP

83号～



CTC HP



公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター
 Hyogo Construction Technology Center for Regional Development